ポスター発表Ｐ⑱

高専におけるティーチング・ポートフォリオの広がり

松本高志　　奥本良博
(阿南工業高等専門学校)

１.はじめに

平成20年12月に出された中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」では,「FDの取組と普及が見られるが,それが我が国全体として教員の教育力向上という成果に十分つながっているとは言い切れない。」と指摘してされている。そして,教員が多様化する学生に対して適切な教育指導を行うためには,教授法に関する不断の研究を行うことが一層強く要請されている。また,FDの義務化を契機として,各大学では,FDの在り方を主体的に見直し,教員の教育力向上に向けた取組を総合的に進めていくことが重要であるとされている。そして,具体的な改善方策の一つとして,ティーチング・ポートフォリオ（以下,「TP」という。）の導入・活用が挙げられた。本稿では,阿南工業高等専門学校（以下,「本校」という。）において開催したワークショップ（以下,「WS」という。）の実績と参加者のアンケート結果をもとに教育改善活動としてのティーチング・ポートフォリオの広がりについて報告する。

２.阿南高専で開催したTPワークショップ

2-1　開催実績（平成23年9月まで）

これまで阿南高専で開催したTPワークショップの状況を表1に示す。 第1回は,校内メンターは2名の状況で本校教員のみを対象として実施した。外部からメンターを2名招聘し,大学評価･学位授与機構のWS形式を倣って実施した(1)。急な開催ではあったが,授業改善に関心があり積極的な教員が参加したと考えられる。第1回目のWSの試みが成功したことから,TPを他高専へも普及させようと考えた。他校の教員を交えたWSにすれば,新たな情報交換が生まれTP作成との相乗効果を得られると考えたからである。第2回と第3回は,本校が加盟しているの四国地区大学教職員能力開発ネットワークと連携し,四国地区の高専教員を対象として阿南高専において開催した。第2回に比べて,第3回,第4回では,他高専からの参加者が増え,TPへの関心が高まってきていることが窺える。また,四国地区以外の高専からも参加希望があり,可能な範囲で受け入れた。第5回は本校教員が参加しやすい夏季休業に合わせて9月に開催したが,四国地区の他高専は前期末試験期間だったため,他高専からの参加はなかった。

本校で開催された5回のWSには,合計47名が参加し,内訳は本校教員28名,他高専教員19名であった。その結果,9月現在の本校常勤教員の48%がTPを作成している。採用後,数年未満の教育経験が短い教員を対象から除くとすれば,実質的にはさらに高い割合で作成されている。なお,ここでは作成後,転出した教員2名は除外している。今後は,経験豊富なベテラン教員が参加しやすい環境づくりも重要であると考えている。

これまで,開催日程やワークショップの運営についての様々な試みからWSに関わるノウハウを蓄積できている。

表１　WS開催WS開催状況

	日　程	本校参加者	他校からの参加者
第1回	2010. 3.23-25	7	0
第2回	2010. 7.26-28	4	3
第3回	2010.12.17-19	5	9
第4回	2011. 3.23-25	3	7
第5回	2011. 9.14-16	9	0

2-2　事後アンケート結果

WS の内容については，参加者に対して毎回事後アンケートを実施しており，その結果を次回の WS へフィードバックしている。表２にアンケート結果の抜粋を示す。同表(1)から「そう思う」と「どちらか言えばそう思う」を合わせて 100%であることから研修の満足度は高かったと言える。同表(2)においても 4 人を除き同僚に勧めたいと回答している。最後に，同表(3)では 4 人を除いて「TP は教育改善につながる」と回答していることから，FD 活動として十分価値があると言える。また，記述式アンケート回答では，「講習会形式では得られない具体的な成果物ができる」，「改善への足がかりを作れた」等，肯定的な回答が多数を占めている。

表２ 事後アンケート結果

(1)研修は全体的に満足できるものだった

	度数
④そう思う	30
③どちらかといえばそう思う	13
②どちらかといえばそう思わない	0
①そう思わない	0
計	43

(2)ﾃｨｰﾁﾝｸﾞ・ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵの作成を同僚にも勧めたい

	度数
④そう思う	15
③どちらかといえばそう思う	23
②どちらかといえばそう思わない	4
①そう思わない	0
計	42

(3)ﾃｨｰﾁﾝｸﾞ・ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵは自身の教育改善に繋がる

	度数
④そう思う	20
③どちらかといえばそう思う	21
②どちらかといえばそう思わない	4
①そう思わない	0
計	45

３.本校から他高専への広がり

第 3 回 WS には関東のある高専から 2 名の参加があった。そのうちの 1 人は，第 4 回の WS においてメンターとして再度参加し，その経験を生かし平成 23 年 9 月に自校で WS を開催した。

さらに，平成 23 年 11 月 11 日(金)から 13 日(日)の日程で高知高専において阿南高専主催で TP 作成とメンター養成を目的に WS を開催した。既に高知高専には本校の WS で TP を作成した教員が 4 人おり，そのうち 3 人がメンターを勤めた。本校からは筆者ら 2 名がスーパーバイザーとして参加した。作成者は高知高専の教員のみであり，定年近いベテラン教員から 2 年目の経験が浅い教員までの 7 人だった。

この際 WS における事後アンケートの結果は，回答数 6 について，表２(1)の設問に対しては，④が 5 人，③が 1 人であり，満足度が高かったと言える。同(2)の設問に対しては，④が 3 人，③が 3 人であった。同(3)の設問に対しても，④が 3 人，③が 3 人であった。これらの結果から高知高専の参加者は，TP 作成を教育改善につながる活動として満足している，と考えられる。

４.おわりに

TP を作成することを広めることが目的ではなく，教員の教育改善に役立つ活動として活用されることが重要である。そのため TP を活用してどのように教育改善が進んだかを評価する手法が求められる。

本校の TP に関する取組は，平成 22 年度採択された文部科学省大学教育推進プログラムの一部であることから，今後も継続的に実施していく計画である。

参考文献

(1)独立行政法人 大学評価・学位授与機構：日本におけるティーチング・ポートフォリオの可能性と課題－ワークショップから得られた知見と展望－，評価結果を教育研究の質の改善・向上に結びつける活動に関する調査研究会報告書(2009)